

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	統括部局：教務機構	担当部局：教務機構
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科) 《全学的な視点》	
中項目	6.2 教育課程・教育内容	
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院)	
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. コースワークとリサーチワークのバランスをとり体系的なカリキュラムを編成する。	→カリキュラムの編成を検証するための委員会の開催	C	C	B	B	/
2. 国際的な学会・研究雑誌等で研究成果を発表する優れた若手研究者を輩出するための教育システムを確立する。	→国際的な学会での発表件数及び研究雑誌への掲載数、海外への留学生数	C	B	B	B	/
3. 文理融合型の研究科横断的な枠組みを設定する。	→文理融合型の研究科横断的な枠組み設定を行うための委員会の開催	C	B	B	B	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	各研究科においては、カリキュラム検討委員会、大学院諸問題検討委員会等、カリキュラムを検討する委員会を設置している。大半の研究科において、カリキュラムポリシーに鑑みたカリキュラムの検証、カリキュラム構成の検討などを行っている。
目標2	2010年度に設置された大学院海外研究助成金制度により、大学院生が海外で開催される学会等における発表や、海外における調査研究を支援する仕組みが整備された。採用者は2010年度30人(内、学会発表は21人)、2011年度36人(同20人)、2012年度35人(同21人)と着実に増加している。しかしながら、助成制度に申請しない国外学会での発表件数、国際学会研究雑誌への掲載数、海外への留学生などの把握はできていない。
目標3	文理融合型の研究科横断的な枠組みを検討するために、2010年度には大学院教務学生委員会検討ワーキンググループを設置し答申がまとめられ、2013年度の本格実施に向けて段階的に検討する予定であったが進捗していない。2011年度にはポストG P連携会議が設置されているが、研究科横断的な枠組みの設定に向けた具体的な検討はしていない。
備考	文理融合型の研究科横断的な科目として、2011年度理工学研究科と経営戦略研究科が合併科目(共通科目)「研究開発型ベンチャー創成」を開設した。